

今年もあと2カ月。やり残した事も多いだろうが、忘れてならないのが少額投資非課税制度(NISA)。株は年をまたいで繰り返してしまっているので、今年分の非課税の恩恵を受けようと思えば12月末までに投資を始める必要がある。証券会社も「駆け込み需要」獲得に余念がない。売れ筋商品を押さえつつ、改めてNISA投資法の基本を復習しておきたい。

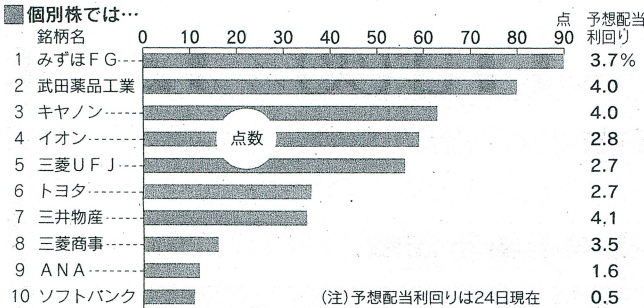
「女性誌のNISA特集記事を読んで夏に口座を作ったけど、何に投資すればいいかわからず放置している」。26歳の会社員女性Aさんは悩む。NISAは今年から始まった年間100万円(元本)までの株や債券などの投資について、配当や売却益を非課税とする制度。通常の投資の場合に差し引かれる20%の税金分の「節約」になる。証券会社や銀行で専用口座を設けて利用する。

未投資の口座なお
金融庁の調査では6月末の口座数は約727万で、総買い付け額は1兆5631億円に上る。だが、Aさんのように口座を開いただけでまだ投資を始めていない人も多い。8月末でおよそ3分の2が未投資のまよう(日本証券業協会調べ)。様々な制度変更が議論されてはいるが、現行ではNISAは毎年100万円5年間、最大500万円までの投資が非課税になる時限制度だ。せっかく今年に口座を開いても投資を始めなければ、非課税枠が100万円分減ってしまうことになる。期限は年末だが大納会ギリギリでは遅い。個別

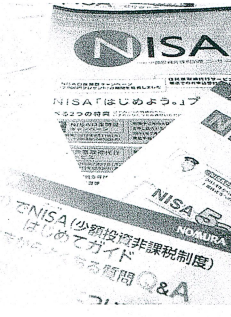
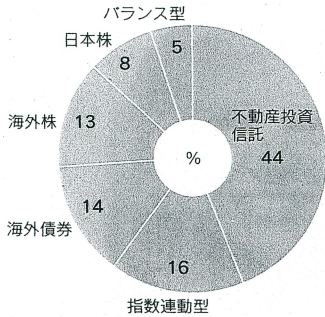
今年のNISA 使い切る

NISAの売れ筋商品アンケート

大手証券10社を対象に9月末時点の売れ筋商品を聞き取り調査した。個別株は上位10銘柄を挙げてもらい、1位10点、2位9点……10位1点の順に割り振り合計点を算出。9社より回答を得、90点満点とした。投票は名前の挙った商品をタイプごとに分類してシェアを出した。



投信のタイプでは…



NISA活用のコツは投資に対するニーズ次第

ニーズ	投資例	メリット・デメリット
安定した利回り	● 高配当株 ● 株主優待銘柄 ● 不動産投信	● 定期的に配当や株主優待を得られる ● 配当金が元本の取り崩し分(特別配当金)なら、もともと非課税
値上がり益	● 新規株式公開 (IPO) 銘柄 ● 中小型株 ● アクティブ投信	● 利益が出た場合の非課税額が大きい ● 価格変動幅が大きい
リスク低減	● バランス型投信 ● インデックス投信	● 毎月一定額同じ商品を買う「積み立て」をすれば、よりリスク分散ができる ● それでも値下がりがリスクは避けられない

安定利回りなら高配当株

株の場合、受け渡した3営業日かかる。今年の最終売買日は12月25日。まだ口座を開いていない人の場合、住民票など必要書類をそろえる時間も含め、3〜4週間はみた方がよい。いざ始めようとしても悩

3タイプに大別
楽天証券経済研究所の篠田尚子ファンドアナリストは「まずNISAの非課税枠をどのように使いたいか考える」と話す。例

野村証券やSBI証券など10社に聞き取りをした結果、

中小型株や新規株式公開

み多い投資初心者は多いだろう。現物株か投信か。株なら大型株か小型株か。投信なら投資先は株式、債券、不動産のどれか。地域は国内か、先進国か、新興国か……選択肢は多い。

まずは安定利回りを重視する場合。定期収入が欲しい。配当や株主優待が魅力的な株、不動産投資信託(REIT)などが選択肢。

実際の利用者の中でも最も多いとみられる投資法だ。野村証券やSBI証券など10社に聞き取りをした結果、

個別株の人気ランキングではみずほFGやイオンなど高配当の大型株が株主優待のある株が目立つ。投信では安定した配当利回りのREIT人気が高い。

多くの買えるのでタイミングに悩まず投資できる。NISAでも積み立て投資は可能で、主要証券10社では9月末までに18万人強が利用している。都内の自営業、山崎真理子さん(36)もその一人。国内外の株、不動産など6本のインデックス投信に毎月3万円ずつ投資する。ただしこの場合、年間でも36万円しか投資しないため「残りの非課税枠は値上がり益を狙える株式に使おう」と考えている。このように、NISA枠の中でニーズに応じて使い分けるのも1つの方法だ。(野口和弘)